

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地				
伝統文化と環境福祉の専門学校		平成20年1月8日	本間 慎		〒952-1209 新潟県佐渡市千種丙202番地1 (電話) 0259-61-1122				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地				
学校法人 新潟総合学院		平成7年3月24日	理事長 池田 祥 護		〒951-8065 新潟県新潟市中央区東掘通一番町494 (電話) 025-210-8565				
目的	自然環境保全学科では、環境分野で活躍できる職業人の養成を目的としている。環境分野は多岐にわたるため、自然環境調査、エコビジネス、エネルギー、土木といった幅広い内容で、各分野で活躍する職業人を講師に迎え授業を展開し、グローバルからローカルまで幅広い環境問題に対応できる人材の養成を行っている。								
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士		
工業	専門課程		自然環境保全学科		平成21年文部科学省告示第21号		-		
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	2310	750	1260	300	0	0		
単位時間									
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
40人		8人		1人		10人		11人	
学期制度	■前期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、授業態度、出席状況、レポート				
長期休み	■学年始: 4月1日～4月3日 ■夏季: 8月10日～9月12日 ■冬季: 12月15日～1月10日 ■学年末: 3月1日～3月31日			卒業・進級条件	・出席数8割以上 (授業科目、総時間に対して8割以上の出席) ・成績評価C以上				
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 個人面談、保護者会、カウンセリング			課外活動	■課外活動の種類 スポーツ大会、ボランティア ■サークル活動: 有				
就職等の状況	■主な就職先、業界等 リサイクル、自然エネルギー、環境教育業界等 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成26年度卒業者に関する平成27年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	生物分類技能検定3級 2級ビオトープ計画管理士 2級ビオトープ施工管理士 環境再生医初級 プロジェクトワイルドエドゥケーター プロジェクトWETエドゥケーター Word文書処理技能認定試験3級 Excel表計算処理技能認定試験3級 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験初級 コミュニケーション検定初級				
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成26年4月1日 在学者 10名 (平成26年4月1日 入学者を含む) 平成27年3月31日 在学者 10名 (平成27年3月31日 卒業者を含む)		■中退率 0%						
	■中途退学の主な理由								
	■中退防止のための取組 個別面談、保護者会、カウンセリング								
ホームページ	URL: http://www.sado-nsg.com/								

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

環境に関わる分野は、産業として新しい分野である。そのため、必要となる知識や技術は常に進化を続ける。さらに、自然環境に関わる職業は、現場を通じる技術・知識が要求される。そこで、実際に各分野で活躍する職業人を兼任講師に迎えるとともに、専任講師も兼任講師より情報を得ることにより、環境のそれぞれの分野で使われる最先端の調査方法・技術とそれに付随する知識を取り入れ、教育に反映する。

また、学生の就業先においても、現場で生きる力や幅広い環境分野に関わる知識を要求される動向があり、そのことから上記の体制を整えている。

この他にも、関連分野の動向については、教育課程編成委員会の他、関連学会、関連施設、NPO等へ選任教員が積極的に参加、連携することにより、教育課程編成委員会を超えた情報の獲得を行っている。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
広野 行男	環境省 佐渡自然保護官事務所
名畑 匡章	佐渡市 環境対策課
山本 健次	一般社団法人新潟県環境衛生研究所 佐渡検査センター
仲川 純子	一般社団法人佐渡生きもの語り研究所
本間 慎	伝統文化と環境福祉の専門学校
渡辺 秀則	伝統文化と環境福祉の専門学校
後藤 唯	伝統文化と環境福祉の専門学校

(開催日時)

第1回 平成27年12月16日 15:00～15:45

第2回 平成28年 3月22日 15:00～(予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

幅広い自然環境分野での調査実績を有し、佐渡において定期的な調査を行い、また、調査技術(技術士(環境部門)、環境カウンセラー)と教育技術(日本自然保護協会講習会講師)を兼ね備える組織・人材を選定している。

実際に請け負う調査に準じた内容の調査演習を行い、調査技術・知識を口頭で確認するとともに、調査データからレポートの作成を行い、その内容を持って評価を行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
野生生物調査演習 I	実際の職業の場と同様の野生動物調査をフィールドで行い、知識、技術等を習得する	応用生態技術研究所
野生生物調査演習 II	実際の職業の場と同様の野生動物調査をフィールドで行い、知識、技術等を習得する	応用生態技術研究所

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

就業規則第57条の規定に基づき、専門分野の知識・技術に関する教育・研修、学生指導について必要と認められる教育・研修等への積極的な参加と業務に有効に活用を定めている。

専門分野の知識・技術に関する教育・研修については、専門分野の調査・研究への参加、学会への参加及び発表、専門分野に関わる講習会・講演会への参加を促し、また、情報の収集と提供を行っている。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
広野 行男	環境省 佐渡自然保護官事務所
名畑 匡章	佐渡市 環境対策課
山本 健次	一般社団法人新潟県環境衛生研究所 佐渡検査センター
仲川 純子	一般社団法人佐渡生きもの語り研究所
本間 慎	伝統文化と環境福祉の専門学校
渡辺 秀則	伝統文化と環境福祉の専門学校
後藤 唯	伝統文化と環境福祉の専門学校

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.sado-nsg.com/disclosure.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.sado-nsg.com/disclosure.html>

授業科目等の概要

(工業専門課程自然環境保全学科) 平成27年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			近自然学Ⅰ	近自然学の効果的で実践可能な環境共生共存理念を理解し、河川や都市計画、あるいは自分自身の実生活の中で近自然的思考を実践する。	1・ 通 年	30		○			○			○		
○			近自然学Ⅱ	講義では近自然学の基本的理念を扱い、演習では近自然学を応用したライフスタイルや川づくり、まちづくりなどをシミュレートする。	2・ 通 年	60		○	△		○				○	
○			基礎植物学	植物の構造を理解し、その上で各植生が形成される要因、特徴を理解する。植生調査に必要な知識を身につける。各器官の名称、植物分類の基礎知識について解説を用いて学ぶ	1・ 通 年	30		○			○				○	
○			基礎動物学	各種動物の分類、体の構造、特性を学び動物調査の基礎となる知識を身につける。スライドや実物の昆虫を用い授業を進める。	1・ 通 年	30		○			○				○	
○			基礎生態学	生物学の基礎を、身近な具体事例や実物を利用して理解を促す。自然界の階層のうち生態系、群集、個体群の各レベルにおける環境と生物、生物と生物の相互関係を理解させる。	1・ 通 年	60		○			○			○		
○			動物生態学	調査で得た情報を基に授業を進める。各種の生態系における関係性、植生とのかかわりをディスカッションを交えて理解する	2・ 通 年	30		○			○				○	○
○			自然環境問題概論	身近な自然からグローバルな自然を認識し、人間活動がその自然の破壊者となっていることを具体的に示し、その改善策を講述する。	2・ 通 年	30		○			○			○		
○			エコビジネス学	持続可能な社会の構築と維持を可能にする環境ビジネスのあり方、環境リスク問題を解決するための新しいビジネスのあり方について事例を提示、ディスカッションを交えて授業を行う。	1・ 通 年	60		○	△		○				○	
○			エコビジネス演習	持続可能な社会の構築と維持を可能にする環境ビジネスのあり方、環境リスク問題を解決するための新しいビジネスのあり方について事例を提示し、実例を交えて演習を行う。	2・ 通 年	60			○		○				○	
合計				科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自然環境保全学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			環境アセスメント概論	環境アセスメントの理念や手続き、調査・予測・評価の技術についての知識を身に付けるとともに、いくつかの事例を取り上げて科学的見地から考察を加える。	2・ 通 年	30		○			○		○		
○			環境法規Ⅰ	自然環境分野の基本的な法律の概要とその運用、成立の背景、課題を把握する。各法令の運用の現場の実例を挙げ、概要を解説する。	1・ 通 年	60		○			○		○		
○			環境法規Ⅱ	自然環境分野の基本的な法律の概要とその運用、成立の背景、課題を把握する。各法令の運用の現場の実例を挙げ、概要を解説する。	2・ 通 年	60		○			○		○		
○			地域づくりと行政Ⅰ	合意形成が必要になってきた背景と、具体事例についての合意プロセスその課題を検討する。また、グループごとにテーマに沿った計画策定の演習を行い、合意形成の手法を習得する。	1・ 通 年	30		△	○		○			○	
○			地域づくりと行政Ⅱ	合意を図るために必要な考え方、手法について学ぶ。いろいろな角度から分析し、主体の価値観や将来イメージの合意を図るために必要な考え方、手法について学ぶ	2・ 通 年	30			○		○			○	
○			パソコン演習Ⅰ	撮影した画像処理や環境保全対策を行った理想を映像化する方法、調査結果のまとめ方など環境分野で必要となるパソコン技術の基礎をみにつける。	1・ 通 年	30			○		○		○		
○			パソコン演習Ⅱ	PC上で、環境計画に応用するためのデータ作成方法、データ解析および表示方法について課題演習を通じて学習する。	2・ 通 年	60			○		○		○		
○			動物調査法	実際のトラップ等を使用し、トラップの特徴を学ぶ。野生動物の調査に関わる知識、技術を体得する。実際の現場で、調査計画、調査法の判断、調査の実施が行える力を身につける。	1・ 通 年	30			○		○			○	
○			野生動物調査演習Ⅰ	フィールドで野生動物調査を行う動物調査法で学んだ知識、技術を実践する	1・ 通 年	60			○		○			○	○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自然環境保全学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			野生動物調査演習Ⅱ	フィールドで野生動物調査を行う 環境の異なるフィールドで調査を行う	2・通年	90			○			○		○	○
○			農林水産業実習Ⅰ	実際の現場を見学、実習を行う 一次産業の実態を学ぶとともに、第6次産業についてまなぶ	1・通年	60				○		○		○	
○			農林水産業実習Ⅱ	実際の現場を見学、実習を行う 一次産業の実態を学ぶとともに、第7次産業についてまなぶ	2・通年	60				○		○		○	
○			植物調査法	植物調査の方法を学び、現場で実施可能になる 各種植物調査法を座学で学ぶ	1・通年	30			○		○			○	
○			自然植物観察実習Ⅰ	フィールドで植物観察、調査を行う 植物調査法で学んだ知識、技術を実践する 多様な環境下での植生を観察する	1・通年	60				○		○		○	
○			自然植物観察実習Ⅱ	フィールドで植物観察、調査を行う 植物調査法で学んだ知識、技術を実践する 多様な環境下での植生を観察する	2・通年	90				○		○		○	
○			海洋調査演習Ⅰ	毎回、野外において実習や調査を行い、海洋域における基本的な生物調査やゴミ調査、シュノーケリング・シーカヤック技術などを習得する。	1・通年	30			○			○		○	
○			海洋調査演習Ⅱ	海草の重要性を理解すると共に佐渡沿岸に産する種の生育の実際を学ぶ 海洋環境の調査手法を学ぶ	2・通年	30			○			○		○	
○			ビオトープとその広がりⅠ	日本の各種事例、各国の事例を交えながら授業を進める。 ビオトープを計画、施工、管理する上で必要な基礎知識を習得する。	1・通年	60			○			○		○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自然環境保全学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビオトープとその広がりⅡ	一年時に学んだ基礎知識を基にさらに発展的にビオトープ、自然再生について学ぶ。各環境でのビオトープについて考える。	2・通年	60		○			○			○	
○			地球デザイン概論	自然再生工法を基にした、土木施工技術の大まかな方法を習得する。自然再生工法を基にした、土木施工技術を習得し、その場所の生態系にあった工法を考察する。	1・通年	60		○			○				○
○			地球デザイン演習	自然再生工法を基にした、土木施工技術の大まかな方法を習得する。自然再生工法を基にした、土木施工技術を習得し、その場所の生態系にあった工法を考察する。	2・通年	60			○		○				○
○			資格対策演習Ⅰ	補完的講義と試験対策の模擬問題を実施する各種資格認定試験の合格を目指す	1・通年	250			○		○			○	
○			資格対策演習Ⅱ	各種資格認定試験の合格を目指す補完的講義と試験対策の模擬問題を実施する	2・通年	70			○		○			○	
○			文化と地質(ジオパーク)	佐渡の文化と地質を学び、人の営みと自然の関係を学ぶ 現地での講義を行い、環境の基礎となる地質、文化を学ぶ	1・通年	60		○	△			○			○
○			GIAHS論	佐渡を事例にGIAHSを通じ、世界での食糧問題、土壌・水質汚染の問題を理解する。途上国での伝統的農業と近代農業の在り方を学び、持続可能性を理解する。	2・通年	30		○			○			○	
○			総合演習Ⅰ	各講義・演習・実習で学んだ知識、技術を生かし、学生自信がそれぞれに計画した内容で活動を行う。	1・通年	90			○		○			○	
○			総合演習Ⅱ	各講義・演習・実習で学んだ知識、技術を生かし、学生自信がそれぞれに計画した内容で活動を行う。計画・実行・評価・習性を一連の流れで行い、各授業で学んだ内容を体系立て理解する。	2・通年	120			○		○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自然環境保全学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			就職実務	就職にむけた意識づけ、就活の準備を整えるテキストに沿った授業	1・ 通 年	30		○			○		○		
○			ビジネス マナー	社会人としての心構え、基本動作、言葉遣い、訪問マナーなど一般常識を学ぶ	2・ 通 年	30		○			○		○		
○			インター ン シ ッ プ	実社会での実務研修の体験し職業体験を通じ職業の理解を図るとともに、就労の場で社会意識ならびに職業意識を高める。客観的な評価を受けることにより学生の能力向上を図る	2・ 通 年	60				○	○		○		
○			専門	各自設定した内容に準じた学習を展開し、進路に向けた学習を行う	1・ 通 年	120				○	○		○		
○			専門	各自設定した内容に準じた学習を展開し、進路に向けた学習を行う	2・ 通 年	270				○	○		○		
合計				41 科目	2600単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学科80%以上出席、成績評価がすべてC以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。